

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 24 日

札幌市立 厚別北小学校

1 今年度の重点目標

夢をもち 自ら未来を拓こうとする子どもの育成

2 本年度の経営方針

それぞれの安心が お互いの信頼に みんなの喜びあふれる厚別北小

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	〇〇な子どもを ●●な子どもに 育て「たい」	よく学ぶ子ども よく遊ぶ子ども 広い心の子ども の育成がなされているか。	B	今年度の教育全体計画の【評価】を基に子どもたちの実態をしっかりと把握して次年度の教育全体計画の【改訂】に生かす。 子どもたちの思いを大切にしながら、適切なサポートを行っていく。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見		・自ら手を上げ、自分の意見を上手に発言できる児童が数多く見られます。Chromebookでは、朝のシャボテンに始まり、児童は不明な点等を検索でき、先生は短時間ですべての児童の考えが把握できる等、授業の効率を上げられています。中休みは、先生が率先してグラウンドに出られ遊びで児童同士の交流を深められ、よい発言があれば友達同士が拍手し高め合っています。 ・子どもたちがミニ二児に来館してくるときやミニ二児で生活しているときの言動から、学校生活が楽しく充実していることが伺えます。また、学校行事やミニ二児の行事、児童の様子など情報交換にも配慮していただき感謝しております。次年度も引き続きよろしくお願いたします。 子ども基本法からくる「こどもまんか」社会の実現のためにも、「子どもたちの思いを大切にしながら、適切なサポートを行っていく」ことは重要でしょう。その際、どのような方法で子どもの思いを吸い上げていくのか、吸い上げたものをどう具現化していくのかなどが大切になってくると考えます。 ・ミニ児童会館でも子どもたちは、読書が好き、夢中になって本を読む姿が見られ、マイブックタイムなどの学校の指導が成果を上げていると感じます。来年度、マイブックタイムの時間が延長されるようですので、さらに成果が上がることを期待します。 ・授業、家庭の日常生活においてストレスが溜まる中、授業の重点課題克服、子どもたち一人一人が交流し合うことを自分の考えをもって克服したものと思う。この積極的な気持ちをもち続けていただきたい。				
人間尊重の教育	キャリア・パスポート	子ども自身が自己の振り返りの中で成長を感じることができているか。	B	自己の活動の振り返りだけでなく、自己分析を行い、子ども自身が現在地を把握し、何をを目指すのか、どんなサポートが必要なのかを自分自身で考えられる教育活動を進めていく。	A	A
「学ぶ力」の育成	「学ぶ力」育成プログラム	日々の授業改善がなされているか。	B	「課題設定」と「交流」に重点を置き、子どもの思考が連続し、自ら課題を見つけ出せる連続性のある授業の構築を目指す。 子どもの「分からない」を大切にした授業づくりと「分からない」を言える学級風土づくりの推進	A	A
「豊かな心」の育成	道徳教育 交流活動	よりよく生きるための基盤となる道徳性が養われているか。	B	特別な教科道徳の指導計画の見直しと充実を図る。また、子どもたちが自治的な活動を通して、相互承認の態度を高めていく。 異学年交流の取組方を見直し、学年ごとの目的を明確にし、相手意識の醸成を図る。また、交流教育についても児童の実態に合わせ、積極的に行っていく。 子どもに「気づかせる、考えさせる、行動させる」指導体制の構築を図る。	A	A
「健やかな体」の育成	「健やかな体」育成プログラム	「仲間・時間・空間（三間）」の創出による運動機会の充実がなされているか。	B	外遊びの推奨の継続。委員会活動と連携を図り、運動機会の充実及び場の確保や遊び道具の提供を行う。 食育、命を大切にすることは、各教科と密ながら横断的・総合的に、より一層の充実を図っていく。	A	A
一貫性・連続性のある教育 （小中一貫した教育）	・9年間を通した子どもの学びのつながり ・子ども理解、生徒指導の連続性	グランドデザインを基に学校・家庭・地域のつながりが生まれているか。	B	グランドデザインの見直し及び教職員間の交流の充実を図る。中学校教諭による専科指導や授業体験の機会を設ける。また、幼保小連携も推進し、学びの連続性を高める。 札幌らしいコミュニティ・スクールの実現に向けて、地域学校協働活動の検討を行う。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見		・冬の外遊びを促せる取組があるとよい。 ・小学校卒業後の他の学校の児童との交流がスムーズに行えるように、小学校在学中の間から、地域や他の学校の子たちとの交流がもてるように。 ・授業の単元の終わりに必ず振り返りを書き、自分がこの単元で何を学んだか文章にして復習し先生に提出しています。この単元のみならず、自己分析もでき、先生のアドバイスも受け次の目標が見出せるように思います。児童の分からないを大事にされています。異学年交流は星の広場等で、高学年は低学年をリードし、低学年は高学年を尊敬し社会の縮図の基礎が成されているように感じます。9年間を通しての学びの連続性で子どもたちの未来、成長が楽しみです。コミュニティースクールの支援も楽しみです。 ・ミニ児童会館の子どもたちの様子から「相互承認」の育ちは感じられるので、達成状況がBのため自己評価の適切さをBとしました。 自立した札幌人を目指すためにも、キャリア・パスポートを活用した自己の振り返りは重要です。「自己分析」「自己把握」等を自分で考えられる力を養えるように教育活動を進めてほしいと考えます。 ・「学ぶ力」の育成部分で、「分からない」を言える学級風土づくりには大いに賛同します。「分からない」を大切に授業づくりにおいて、言葉尻になりますが、「分かりたい」を大切にした授業づくりがよいと思います。「分からないから分かりたい」「分かっているけれどもっと分かりたい」なのかなと思いますし、札幌の学校が大切にしていること「学ぶ力」の「自ら『～したい』ことを見付けて」に通じるのではと考えます。 ・図書ボランティアにより読書環境の充実につながることはとてもよいことだと思う。道徳や心を豊かにする授業が必要であり、命の大切さやいじめについて考えて行動することを身に付ける授業をぜひお願いしたい。				
学校独自に 設定する分野	3つのあ（あいさつ、あそび、あいて）を意識した教育活動の推進	B	行事等の子どもの育ちに関わる活動の目標に位置付け、全教室に「3つのあ」の掲示物を貼り、子どもたちの意識付けと教育活動の拠り所とする。	A	A	
	ICTを活用した教育の推進	B	情報モラル教育の充実を図り、学習ツールの一つとしての普段使いを進めていく。また、スキル表の継続により学びの質を高める効果的な活用を目指す。	A	A	
	学びのサポーター、学生ボランティア、外部講師等の活用	A	次年度も積極的に活用することで、心理的安全性が確保され、専門性も高まり、子どもの学びがより深まる教育活動を目指す。	A	A	
学校関係者評価委員会 による意見		・Chromebookの使用に関して、ネットのトラブルや端末の扱いを専門的に指導できる外部講師による出前授業や講演会があってもよい。 ・挨拶面では、今年度保護者評価が、教職員・児童評価と同程度になり、子どもたちの力がより本物になったと考えます。また、子どもたちが本物から学ぶ、先生方の専門性を高めるなどのためにも、次年度も積極的に外部講師の活用を行ってほしいと考えます。 ・3つのあの励行をぜひ続けていただきたい。学習ツールの推進、情報活用の育成とスキルアップとネットモラルの向上を期待したい。				